

研修名 乳児保育・教育

令和元年9月9日（月）13：30～16：00

講演 「1歳児・2歳児の発達と保育内容」

講師 京都文教短期大学 松田 千都 氏

1 講演要旨

- 1) 0～2歳児の発達をとらえる視点
- 2) 保育所保育指針改定の方向性
- 3) 3歳未満児の保育に関わる現状
- 4) 3歳未満児の保育に関する記載の充実の背景
- 5) 「言葉の芽を育てる」ことの大切さ
- 6) 貧困地区で暮らす子どもの言葉
- 7) 1歳児の発達
- 8) 1歳児の発達と保育
- 9) 歩行によって広がる世界・つながる世界
- 10) 道具によって広がる世界・つながる世界
- 11) 言葉の芽を育てるために
- 12) 達成感によって内面が耕される
- 13) 子どもの発達が動くとき
- 14) 専門的知識、技術、判断に基づく保育所保育ならではの発達支援
- 15) 単に「できるか、できないか」ではなく
- 16) 2歳児の発達と保育
- 17) 友達とつながりあって育つ
- 18) 行為主体としての自我の育ち
- 19) 自我の拡大から充実へ
- 20) 「二分的評価」による心の揺れ
- 21) 子どもの「イヤ」は大人への信頼
- 22) 子どもの「イヤ」を発達的に豊かな「イヤ」にするために
- 23) 担任間での話し合いをきっかけに
- 24) 大人にも信頼でき支え合える関係を
- 25) 子どもが「イヤ」と言わない保育＝良い保育？
- 26) 「まってるよ」と言える保育
- 27) 2歳児の世界を守る
- 28) 自我が育つ時期はその子らしさが育つ時期

2 感想

今回の講演で特に印象に残ったことは、イヤイヤ期についてです。担当しているクラスでも最近「イヤ」という言葉を聞くことが増え、そのたびにどう対応することが一番良いのかが分からず、悩んでいました。しかし、今回の講演で聞いた子どもが「イヤ」と言わない保育＝良い保育？のところ、「ワガママをのりこえるというのは、子どもが自分の欲求を引っ込めるということではなく、周囲の状況に目を向け、状況認識をくぐり抜けたうえで自分の欲求を実現する方途を探れるようにすること」であると知り、子どもの「イヤ」に対しての捉え方や、自分自身の気持ちの持ち方、考え方が変わりました。今までは、どうしたら「イヤ」と言わずに行動してくれるのだろうか？と考えがちでしたが、子ども自身が自分で気持ちを切り替えて次の行動を選べるように、また、より良い自分を選びとれるようにということを常に意識して関わっていかなければならないということ学びました。子どもの気持ちに丁寧に寄り添い、受け止めつつ、でも真剣になりすぎず、向き合いすぎず、大人一人で対決せず、自分の心にゆとりをもってイヤイヤ期と向き合っていきたいと思います。今回の講演で学んだたくさんの方のことをこれからの保育で生かせるようにします。

(記録 清仁保育園 北川莉乃)